

創造・参加・実践
No.781

最新のJR西労組運動をチェックしよう!
JR西労組HP (http://www.jrw-union.gr.jp)



「友だち追加」から「ID検索」または「QRコード」で登録!
@dzc0159s



西日本旅客鉄道労働組合

〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目1番18号
西阪急ビル9階
TEL 06-6375-9869(代)
FAX 06-6373-4133

発行責任者 羽野 敦之
編集責任者 白井 聖二

2026年 新年のごあいさつ



西日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員長

羽野 敦之

計画達成に向けた「時金」を勝ち取る事ができました。これを次なる会社の成長に向けた皆さんのモチベーションにぜひともつなげていただきたいと思います。

以下、主要課題4点について所信を申し上げ、年頭のごあいさつとします。

「(A)当たり前のことを(B)バカにせず(C)ちゃんと」運動を全ての職場へ浸透させ、さらなる安全性向上をめざそう

明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新年を迎えることとお慶び申し上げます。また、日頃の業務のご精励とJR西労組運動へのご協力に感謝申し上げます。

2025年は、年末年始が連休の取りやすい曜日配列で、さらに天候にも恵まれたことから多くのお客様にご利用いただき、2024年と比較して穏やかな年明けとなりました。そして、3月には「うめきたグリーンプレイス」と広島新駅ビル「minamo」が開業、4月13日からは大阪関西万博が開幕し、大阪・関西は大いに盛り上がりました。特に、JR西労組、JR西日本連合の組合員の皆さまには、万博に向けた準備から開幕後は鉄道、バスでの万博輸送、さらにはグループ会社では万博グッズの販売など、万博をJR西日本グループ全体で支え、盛り上げていただきました。あらためて感謝申し上げます。

そして、2025年度は中期経営計画2025の最終年度であり、本計画期間に北陸新幹線の敦賀開業、新型やくもの運行開始、モバイルICOCAや新決済サービスのWeemoの導入など、さまざまな取り組みを進めてきました。そのような中、2025年度中間決算では、万博やインバウンド効果もあり5期連続の増収増益、営業収益は過去最高、営業利益も過去最大の費用を計上するものの過去2番目の水準となりました。さらに、通期業績予想を上方修正し、連結営業利益は2027年度目標を達成する見込みとなっています。

これらの成果を作り上げることができたのは、私たちJR西日本グループで働く組合員一人ひとりの努力の賜物だと断言できます。あらためて感謝申し上げます。そのような中、年末には万博と中期経営

計画達成に向けた「時金」を勝ち取る事ができました。これを次なる会社の成長に向けた皆さんのモチベーションにぜひともつなげていただきたいと思います。

以下、主要課題4点について所信を申し上げ、年頭のごあいさつとします。

「(A)当たり前のことを(B)バカにせず(C)ちゃんと」運動を全ての職場へ浸透させ、さらなる安全性向上をめざそう

福知山線列車事故から20年が経過しました。この間私たちは、事故を発生させた反省の上に教訓とし、そして事故を二度と繰り返さないという強い決意のもと、何よりも安全を最優先し、あらゆる知見と経験を結集し、様々な取り組みを進めてきました。2025年は、「お客様の死傷事故ゼロ」「鉄道労災死亡事故ゼロ」を達成するとともに、踏切障害事故をはじめとした「鉄道運転事故」も減少傾向にあるなど、着実に安全性は向上しています。そして、安全に対する組合員の意識が高まっていることはアンケート結果からも明らかとなっています。

その一方で、事故や死亡労災事故に繋がりがねない不安全事故などが後を絶たず、現在JR西労組、JR西日本連合が推し進めている、ABC運動、すなわち、「人間は必ずミスをする」ことを前提とした「(A)当たり前のことを(B)バカにせず(C)ちゃんと」することがとても大切であり、今年もすべての職場に対してその浸透に取り組んでいくこととします。一方、会社は安全性向上に向けた取り組みとして「ホーム安全対策」や「踏切安全対策」などのハード対策を着実に進めています。

本年も安全の取り組みを最優先課題として、「安全は絶対に譲らない」決意を新たに引き続き鉄道の安全と働く者の安全を皆さんと共に創っていく所存です。

力あるJR西日本グループを創ろう

今年度の大会方針のサブスローガンに「心理的に安全な環境を築き、働きがいや誇りを持てる職場を創ろう」を掲げています。心理的安全な環境は、朝夕には構築でき

ないことから、一人ひとりの地道な取り組みが必要で、そのような職場をつくるには、リーダーの役割が重要であり、加えて全員参加で取り組むことが必要です。さらなる心理的に安全な職場づくりに向けた取り組みを、全ての職場で進めていただきたいと思います。

コロナ禍以降、会社は私たちの声にこれまで以上に耳を傾け、そして会社の組合員に働き合う姿勢が大きく変化しました。その結果として、ここ数年の労働協約改訂交渉や春季生活闘争では、今までにない成果を多く勝ち取る事ができました。

2026春季生活闘争に勝利しよう

このように賃金や労働条件などの改善は働きがいや誇りを持てる職場づくりには必要ですが、それ以上に重要なのは職場での人間関係だと考えています。人間関係の良い職場は、皆さんが笑顔で生き生きと助け合いながら働くことができ、結果として心理的に安全な職場になると思っています。皆さんと一緒にサブスローガンの実現に向けた取り組みを進めてまいりたい所存です。

人財への投資を会社の成長投資として2026春季生活闘争に勝利しよう

2025春闘では、過去最高のペースアップ長年の課題であったエリア手当の改善など、多くの改善を勝ち取ることができました。さらに、2024春闘の積み残しでもあった間接や医療部門へも光を当てることができました。その結果、総額として賃上げ率6.01%と連合平均を上回る成果となりました。2026春闘において、連合は定期昇給分を含む「5%以上の賃金引上げ」の実現をめざすことを決定しました。JR連合、JR西労組は、その方針に基づき春闘方針を1月末に開催する中央委員会で決定します。

2026年度は、万博による増収効果がなく、最近の日中間係によるインバウンドの影響も懸念され、さらには過去最大を計上した第2四半期決算の費用などからも春闘を取り巻く環境はより厳しさを増しています。しかしながら、他産業との格差が縮小していないことも賃金実態調査で明らかとなっており、物価高に負けない持続的な賃上げは今年も必要です。2026春闘において

も人財への投資を会社の成長投資と位置づけて、団体交渉に臨みます。加えて、JR連合の掲げる目標値に達していないグループ各社の賃金の底上げは、JR西日本グループの発展には欠かせません。構造改革などを通じた生産性の向上による原資を確保しつつ、労使で未来に繋がる議論を行い、正々堂々と適正な成果配分を求めていく所存です。

人財育成を進め、組織の強化、そして健全な労使関係を継続しよう

今年度の12月6日にJR西労組が発足して35年をむかえます。組織率76%で発足したJR西労組は、現在96%の組織率を誇るまでとなっています。そして、対立と協力のものと健全な労使関係を築いていますが、これは先人、先輩方のこれまでの大変な苦勞があつたからこそであり、これを継続、発展していかなければなりません。今後も健全な労使関係のもと、組合員とその家族の幸せと会社の発展を私たちの力で実現していかなければなりません。そのためには、将来にわたってJR西労組を支える人財の育成と、それに基づく組織強化をより一層進めていく必要があります。人財育成に向けては、多様な価値観に対応するためにも、幅広い年代に加え、系統のバランスも考えていかなければならず、特に女性役員の育成は喫緊の課題であると考えています。

良い労働組合が、良い会社を作ると言われているように、将来に向けた多様な人財の育成を全体での議論で皆さんと一緒に考えていく所存です。

今年の4月から新たな中期経営計画がスタートします。現中期経営計画期間のような大きなプロジェクトは計画されていないことから、次なる期間への準備期間、将来に向けた新たな種まきの期間になると考えています。JR西労組運動の柱でもある企画提案運動として、新たな種を皆さんと一緒に考え、会社へ提案していきたいと考えています。

JR西労組の運動に対するいっそうのご理解とご参加をお願いするとともに、本年が、組合員の皆さん、そしてご家族にとって、健やかな年となることをお祈り申し上げます。

2026年元旦

本年も宜しくお願い申し上げます

特別執行委員 上村 良成
JR連合(会長)
特別執行委員 宮野 勇馬
JR連合(執行委員 企画局長)
特別執行委員 中山 耕介
JR連合(連合総合組織企画局長)
特別執行委員 本田 雅明
JR連合(特別執行委員)
特別執行委員 西村 誠
近畿大阪交運労協(事務局長)
特別執行委員 中山 啓一
連合福岡 筑紫・朝倉地域協議会
会計監査員 新保 孝徳
会計監査員 伊庭 靖直
会計監査員 森岡 最司
会計監査員 釣本 恵里
職員 小林美由紀
職員 昆野裕美子
職員 豊田恵理子



中央執行委員
川西恵太郎



中央執行委員
杉野 晴崇



中央執行委員
大川 達也



中央執行委員
中村 康雄



中央執行委員
石田原 潔



書記長
川端 準一



中央副執行委員長
福本 英治



中央副執行委員長
川原 孝義



中央執行委員長
羽野 敦之



青年女性委員会委員長
高杉 恭平



中央執行委員
高橋 宏誠



中央執行委員
大路 弘美



中央執行委員
細田 春菜



中央執行委員
谷口 博一



中央執行委員
高田 祥平



中央執行委員
白井 聖二